



にじいろ通信 No.36

発行:社会福祉法人健翔会 にじいろ
 所在:埼玉県行田市忍 1-11-1
 TEL:048-598-5252 FAX:048-501-6031
 責任者:にじいろ管理者 齋藤真知子
 MAIL:nijiiro@kenshokai.net

「にじいろ」は児童福祉法により、通学している障害児に対し放課後等に日中活動を提供する健翔会の第3号事業所です。

春はもうすぐそこまで来ています。外で思い切り遊ぼう!!

にじいろのご利用について 定員10名 早めに声を掛けてください!

「障害者支援は理解8割 支援2割」

児童発達支援管理責任者 齋藤真知子

先日、埼玉県発達障害総合支援センター主催の研修に出かけ、東京大学小児科医である熊谷晋一郎氏の講演を聞きました。小児麻痺で電動車いすに乗る先生は、様々な障害の研究を行っている方です。今回は障害者の当事者としての意見を述べられていました。その中で一番印象深い言葉は「障害者支援とは、本人を理解することが8割で、後の2割が支援です」と言ったことです。その人への理解があれば、おのずと支援が分かってくると。本当にそうだと思いました。子ども達にはどんな特徴、特性があって、何を思い、何がしたい、何が好き?今は何を気に入ってるの?と知って理解さえあれば、必要な支援が導かれます。基本的な支援技術や介助方法を身につけていても、その子どもに合った支援でなかったら、残念です。



2/3 節分に赤鬼がやってきました!最初はビックリしていましたが、怖〜い鬼を豆で退治した後は仲よくお豆を食べました。



2/19 段ボールオリンピック第1弾「バスケットボール」を行いました。段ボールとはいえ、本格的なゲームに夢中です。第1回大会金メダルは手島さんがゲットしました。

焦らずじっくり子どもを見つめ続けていくことが大切だと思います。熊谷先生は小さい頃、障害が治ると信じてリハビリを行っていました。それはとてもつらく大変だったそうです。治療や訓練は「医学モデル」といって、できない原因は障害者本人にあると考えます。しかし、医学的な障害は本人にはどうすることもできない事であり、障害は本人の中にあるのではなく、社会環境にあるとされています。(障害者差別解消法) 環境を整え、社会的障壁を何が何でも減らしていくことだと先生もおっしゃっていました。

最近にじいろで反省することがありました。こだわりのある児童がいつも遊んでいるおもちゃのパーツがありません。パニックになりました。後片づけをしっかり行っていればパニックになることもなかっでしょう。職員には、整理整頓、環境整備を改めて周知しました。こだわりは治すものではなく、受け入れて環境を整えてあげることが社会モデルです。今後も子供たちが過ごしやすいにじいろを目指します。



「ははは、みんな、いい子にしていたか」鬼がきたぞ〜怖いけどなんか嬉しそう



「鬼は〜そと!」真剣に豆をまく子ども達です。



にじいろで流行っている「ボールサーフィン」を楽しむ子ども達。クルクル回ったり、滑る感覚が楽しいので大人気の遊びです。時間制限で順番を守れます。



「逃がさないぞ」遠くまで逃げて行った鬼を連れ戻しました。

- ★3月のにじいろ 6日: 段ボールオリンピックサッカー 13日: 理科実験「カラフルカルメ焼き」
 16日~: 農業体験週間「ジャガイモ植え付け」 18日: 余暇活動「ロケットおもちゃを作ろう」
- ★にじいろで欲しいもの 知育玩具 プール タブレット プラレール ぶら下がり健康器
- ★ありがとうございました 齋藤様: お菓子 須加様: 甘酒 渡辺様: 本、CD 横田様: ジャングルジム